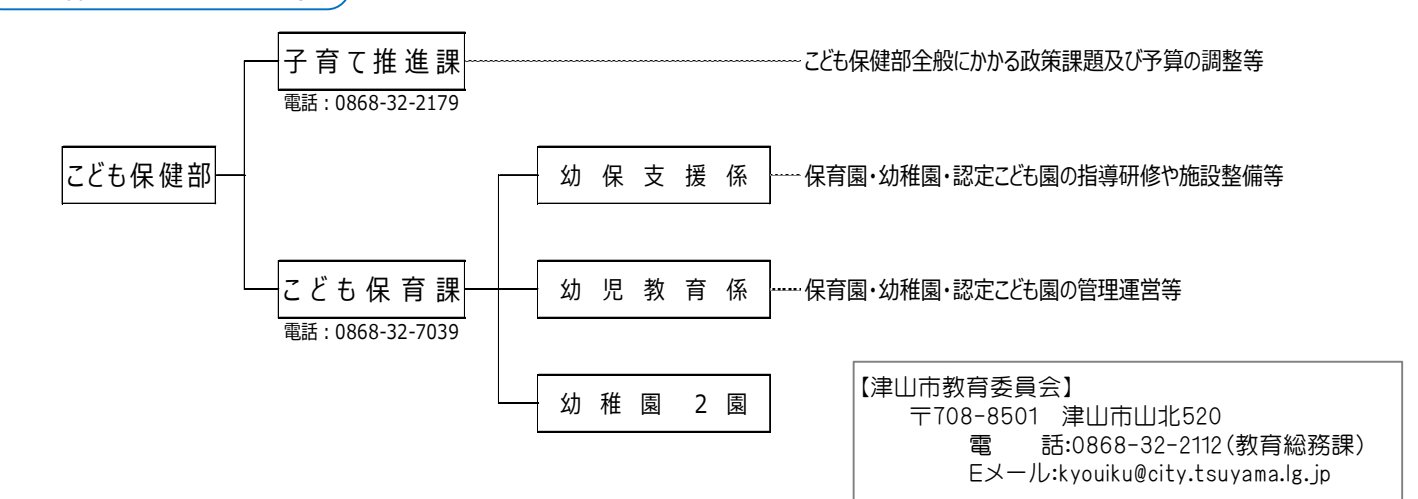


組織体制

教育委員会



こども保健部（市長部局）



令和5年度 津山市の教育（教育要覧）

1. 津山市の概要

津山市は、岡山県の北東部に位置し、北は鳥取県、南は吉備高原に接する人口96,920人、世帯数45,631世帯（住民基本台帳、令和5年4月1日現在）の都市で、岡山県北の中心都市となっています。

本市は、和銅6年(713)に備前国の北部6郡を割いて美作国が設置されたことに始まり、古代から近世まで一貫して美作国の政治・経済・文化の中心を担っていた地域です。慶長8年(1603年)、本能寺の変で織田信長とともに戦死した森蘭丸の弟森忠政が、美作国18万6千5百石の領地を与えられ、吉井川と宮川の合流点を見下ろす鶴山を城地に選定し、「鶴山(つるやま)」を「津山(つやま)」と改め築城に着手し、現在の町並みの基礎が築かれました。

教育面では、幕末から学問の奨励が行われてきたことにより、我が国の近代化に貢献した箕作阮甫をはじめとした、多くの人材を輩出しました。現在、大学・短期大学・高等専門学校が各1校、高等学校は6校あり、教育文化都市としての歩みを進めています。

津山市位置図



津山市市街地



（津山城跡（鶴山公園））



津山市の町並み



2. 市内学校（園）の状況 R5.5.1現在

※()は、うち特別支援学級

学 校	学校数	学級数	児童生徒数	教職員数
小学校	27	275 (61)	4,944 (294)	441
中学校	8	103 (29)	2,449 (145)	216

※中学校については、上記のほか県立中学校が1校ある。

	保育園（所）数	園児数	幼稚園数	園児数	認定こども園数	園児数
公立	2	192	2	135	2	279
私立	22	2,158	2	155	3	372

3. 第5次総合計画（平成28年度～令和7年度）

市民一人ひとりが、可能性を求め挑戦でき、10年先には希望に満ちた彩りあふれる花を咲かせるために、愛着と誇りを感じ、住み続けたいと思える津山のまちを創造することを基本理念としています。

総合計画では、こうした理念をもとに、5つの大綱を定めており、教育施策については、右のような体系に分類しています。

●基本理念（めざすまちの姿）

彩りあふれる花開く 津山の創造

～市民一人ひとりの想いがかなう 夢と希望の花が咲き誇るまち～

【まちづくりの大綱①】子育て環境の充実と人と文化を育むまちづくり

◇子どもが健やかに育つために

●幼児教育・保育の充実

◇次世代を担う子どもために

- 義務教育の充実
- 教育環境の充実
- 家庭・地域の教育力の充実
- 青少年の健全育成



津山市教育委員会では、令和4年3月に、令和4年度から令和7年度までの4年間を計画期間とする「第3期津山市教育振興基本計画」を策定しました。

本計画は、これからの社会構造の変化を見据え、第2期計画を検証・発展させながら、「教育活動の推進・充実」と「教育環境の改善・充実」の2つの基本的方向性に分けたうえで、基本目標と取組内容を設定しており、今後は、本計画に基づき教育施策を推進していきます。

また、一人一台の端末の活用を更に進め、個別最適な学びと協働的な学びを通して、何事にも前向きに挑戦する意欲と優しさを持った心豊かな子どもたちを育てていきます。



津山市教育大綱

◆目指す人間像

自立

自立して、自己の将来を切り拓き、たくましく生きていけるひと

つながり

広い視野で人や地域とつながり、互いを認め合って生きていけるひと

郷土愛

ふるさとを愛し、津山人としての誇りを持って生きていけるひと

津山市教育振興基本計画（第3期）令和4年度～令和7年度（4年間）

教育基本理念 自立し 心豊かにたくましく「つなぐ力」を育む

（1）教育活動の推進・充実

自立

ア 主体的に学ぶ意欲の育成
イ 確かな学力の向上
ウ 健やかな心と体の育成

つながり

ア 自他を尊重する心の育成
イ 人や地域との豊かな人間関係の構築
ウ 道徳性や規範意識の醸成

郷土愛

ア 津山の歴史・伝統・文化などを学び大切にする心の育成
イ ふるさと津山に誇りと愛着をもち、地域や社会に貢献できる人の育成

（2）教育環境の改善・充実

【教育活動を支える環境づくり】

ア 安全・安心な学校づくり
イ 良好な教育環境の維持・向上
ウ 総合的な連携体制の構築



夢や希望を叶える力を育む

津山市の目指す教育（使命・目的）

令和5年度重点施策（使命達成への方針）

令和5年度教育重点施策（使命達成への方針）

◆自らの将来（進路）を自らの力で切り拓く人材の育成
◆ふるさと津山に誇りと愛着を持ち、自己肯定感を高め、地域や社会に貢献できる人材の育成

◆目標を持つ・持たせる
⇒様々な経験・体験をさせる

◆津山を知る・知らせる
⇒学ぶ機会や場を提供する



- ◆落ち着いた学習環境づくり（学習規律、靴揃え、チャイム着席等の徹底）
- ◆ICTを活用した授業改善（個別最適な学びと主体的・協働的な学びの推進）
- ◆読解力の向上（「よむYOMU」ワークシートの全校実施等）
- ◆学習・生活習慣の改善（スマホ等の適正利用、「学びのサイクル」の定着、読書活動の推進）
- ◆郷土愛の醸成（「つやま郷土学」の全校実施、チャレンジワーク14の再構築、体験交流等）
- ◆就学前教育と義務教育の円滑な接続（「津山市共通支援シート」の活用等）
- ◆多様な学びの保障（新たな居場所づくりの充実、教科担任制の全校実施、学年【複数】担任制の拡大2校→13校）
- ◆コミュニティ・スクールの推進（15校の円滑な導入、学校運営協議会の機能化）

学校教育力の向上

津山市「元気スマイルプラン」の実践

教育指導の充実、教員の業務負担の軽減等、使命達成に向けた5つの重点取組を行います。

- 【学校教育体制の整備】
- ①小学校低学年クラスへの支援員の配置
小1プロブレムの解消、就学前からの支援
- ②教科担任制の導入と学年担任制の拡大試行
原則、全小学校高学年へ教科担任制を導入、柔軟で多様な指導体制を研究するため、学年担任制を拡大試行（2校→13校）
- 【教員の負担軽減】
- ③朝練習の廃止と部活動地域連携・移行の検討
効果的効率的な部活動の推進と部活動の地域連携・移行への協議（協議会の設置）
- ④教職員の休暇取得促進と業務の効率化
学校運営改善アドバイザーと管理職で教職員の業務の見直しや、改善に更なる意識改革を図るとともに、時間外勤務時間の目標値を設定（小学校:37時間/月 中学校:47時間/月）
- 【地域との連携】
- ⑤地域学校協働活動と「つやま郷土学」の推進
ボランティア活動や「つやま郷土学」授業を教育課程にへ位置づけ、地域に誇りと愛着を持ち、社会に貢献する人材の育成

主な取組み

教育環境の整備

- ◆今後の小中学校の体制整備に関する説明会等の実施
- ◆学校ICT環境の整備と活用促進（教育データを活用した先進的授業研究）
- ◆ICT支援員の配置等によるICT教育の充実
- ◆学校施設の計画的改修工事（特別教室エアコン実施設計等）と安全安心対策
- ◆教師業務・管理職アシスト員の配置
- ◆アドバイザーによる学校支援（学校経営・教育相談・学校運営改善の3名）
- ◆ICT活用推進チームによる校内研修等のサポートと情報発信

教育活動の充実

- ◆キャリア教育の推進（キャリアパスポートの効果的活用）
- ◆英語指導助手(ALT)の増員と英語教員実践型研修の実施
- ◆特別支援教育の充実（推進ナビゲータによる巡回指導）
- ◆読解力育成ワークシートの全小中学校での活用（「よむYOMU」ワークシートの活用策）
- ◆教育データ活用実証実験（研究指定校と東京学芸大学・NTT西日本等との共同事業）
- ◆多様な学びの保障（新たな居場所づくりによる個別支援・別室支援員等配置）
- ◆若手教員の指導力向上（若手教員育成チェックシートの活用）
- ◆地場産品を活用した食育推進と食品ロス削減

地域・PTA活動の支援

- ◆連合PTA・各単位PTAの主体的活動
- ◆地域学校協働活動の推進（学校支援ボランティア・地域伝統文化等の継承活動等）
- ◆コミュニティ・スクールの計画的な全市展開（令和5年度9小学校6中学校・令和6年度17小学校でスタート）
- ◆健全育成関係団体等の活動（登下校の見守り等）
- ◆公民館等での子ども育成事業等の展開
- ◆不登校・ニート・ひきこもり等の子ども・若者の社会参加・自立支援（当事者・家族の会の開催等）

